

こども未来共創フォーラム パネリストプレゼンテーション

2023.11.12 日曜日 13:00 於:宇部市多世代ふれあいセンター ふれあいホール

1. 宇部市 篠崎市長



宇部市からは、困難な状況に置かれた子どもたちに対する支援ということで、今、宇部市がどのような支援を行っているか、少しお話をさせていただければと思います。

冒頭のご挨拶でも触れさせていただきましたが、子どもたちの困難な状況というのも、いろいろな状況があります。虐待、貧困、ヤングケアラー、DV、いじめ、不登校、非行、家庭問題、本当に、様々な問題があります。こういう子どもたち、困難な状況に置かれた子どもたちに対する支援としては、先ほどの渡辺先生のお話にありましたが、どうやってまず見つけていくのか、そ

してどうやって支援に繋げていくのかというところが大きな課題です。

そして、宇部市が、困難な状況にある子どもたちの支援に取り組んでいるのは、この問題に取り組んでいるキッズラップの金子先生という存在に支えられていることは紛れもない事実であります。まだまだ、宇部市内でも、取り組めていない地域はたくさんあります。そういう地域へも広げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

そのような中で、今、宇部市で、いわゆる貧困対策として、具体的に取り組んでいるものは、どういうものかという、法務省の委託を受けて始めた養育費の確保事業というものがあります。

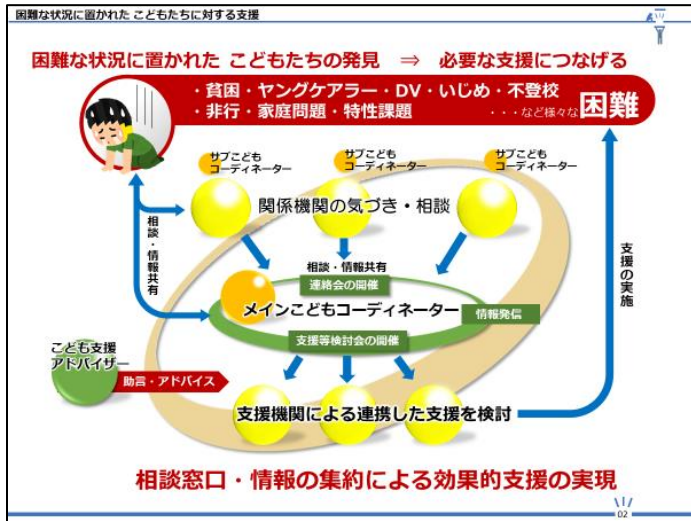
養育費の契約をして離婚しているカップルは3割しかいません。もう1秒でも早く離婚したい。それはご夫婦の問題、一方で、養育費をもらうというのは、私は子どもたちの権利だと思っています。

その養育費の確保を、宇部市では支援事業として、離婚の申し込みをされた際には、きちんと養育費のことを決められていますか、決められてないならば司法書士さんとか、そういう専門職の方をご紹介しますような取り組みをしています。

その他にも、いわゆる学習コーナーや、貧困家庭等に対する学習支援、塾のような支援というものを今はじめているところです。

そして先ほど冒頭に困難な状況と言いましたが、一番、行政で困っているのは困難な状況にも濃淡があるということです。

本当に困難な状況にある子どもは、児童相談所等がすぐ対応しますが、いわゆる行政が対応できないが、児童相談所が対応しなければいけない濃いグレー、また、これから将来5年後6年後にそういう対応になる可能性のある薄いグレーの家庭とか、どこまでを行政が支援すればいいのかという部分、曖昧な部分があるのは一つの大きな課題です。



そしてもう一つ、困難な状況にある当事者の子どもたちが、自分が困難な状況にあるということがわからない、それは子どもたちにとっては当然ですよね。自分たちのことしかわかりません。修学旅行に友達に行ったら、家庭の習慣の違いで、そういうふうになるとか、私はお風呂入る順番で友達と意見がわかれたのを今でも覚えていますが、子どもたちにとっては自分の家庭しか知りません。

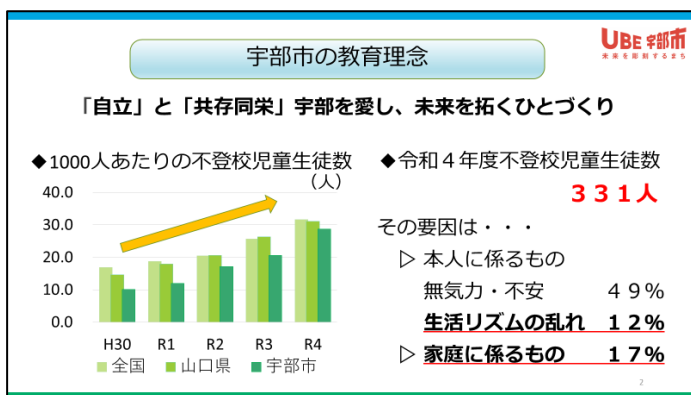
そういう子どもたちが、どんな SOS を出しているのか、それをしっかり発見していかなければならないというのが大きな課題です。現在、そういう困難な状況に置かれた子どもたちを発見する

ために、いろいろな人たちの手を借りて、ネットワークを作って、見つけて、そして必要なところに必要なサービスを提供していこうということを、アドバイザーを置いて、始めております。

子どもたち、また、その家庭でどんな困難があるかわからない。行政相談は行きにくい、行きたくないという方々もいらっしゃいます。それを身近な子育て支援団体とか、子ども食堂であり、あとは通っている「かかりつけ医」の先生たち、そういうところで、もし見つけたら、すぐ近隣のコーディネータのところと連絡をして、その人たちが、一番すぐ支援が繋がる機関はどこなのかというところを見つけて、すぐに支援が繋がるようなそういうネットワーク体制というものを取り組んでいきたいと考えております。

その意味でも、今回の日本ユネスコ協会連盟との連携協定は、このネットワーク作りを後押ししてくれます。日本ユネスコ協会連盟という大きな看板で、日本ユネスコ協会連盟との取り組みだったら協力するという企業もあります。ここで、一気に大きな追い風として、このネットワークを使って必要な支援が必要な子どもたちを見つけて、そして必要なサービスを提供していく。そのようなネットワーク作りは今取り組んでいるところです。私からは以上です。

2. 宇部市教育委員会 野口教育長



宇部市教育委員会の教育長の野口と申します。よろしくお願いいたします。

ご存知と思いますが教育委員会というのは学校教育、小学校と中学校を所管しているところです。

スライドの一番上に、宇部市の教育理念は「自立」と「共存同楽」、と書いております。当然、教育というのは子どもたちの自立を目標にした営みですが、1人ではできない、みんなで支え

合って、助け合って伸びていこうという、これまで、市が大切にしてきた「共存同楽」という言葉を、教育でも大切にしていきたいと思っています。

そのような中、いくつかの課題がありますが、特に、一番かな、大きな課題が、このグラフである不登校の児童生徒数の増加です。見ていただければわかりますように、平成30年、令和元年から見ると、令和4年度は、もう2倍近い増加、全国や山口県と比べると若干低いのですが、それでも右肩上がりで、児童生徒が増えています。今、令和4年度が331人です。その原因は何か。私達も原因がわかれば対処することができるのですが、この中にあって、一番増えた要因は、「無気力・不安」とか、なぜかわからないのに学校に行きたくない声が一番多い。その中で、数、割合は少ないのですが、一番下、「家庭に係るもの」、上の「生活リズムの乱れ」も、同じことかもしれませんが、「家庭が原因」が17%。宇部市で言えば約50人から60人ぐらいが、家庭が原因で学校に行くことができないということで、これは大きな課題です。

「チーム学校」で支援
学校・・・プラットフォームとしての役割

見気どつづくける？

- ◆ 教職員による観察・見守り・生活ノートの活用
- ◆ 週1回のアンケート調査
- ◆ 年2回の持ち帰り方式のアンケート
- ◆ 1人1台タブレットからの相談・報告(アプリの活用)
- ◆ スクールカウンセラー (SC) や
スクールソーシャルワーカー (SSW) の活用

▶ 令和5年度～ **SSWを増員(4人→8人)**

学校だけでは解決が困難な事案に対して、福祉部局や関係機関と連携しながら、家庭環境にアプローチ

さきほど、渡辺先生の説明にもありましたが。学校は、センター、真ん中の存在です。いちばん、子どもたちの様子とか状況とかを発見できる場所。プラットフォームです。そのプラットフォーム的な役割を学校で、チームで、学校の色々な関係者と関わりながら見つけていく。観察とか、教育相談とか、アンケートとか、タブレットからの相談とか、またカウンセラーがそしてスクールソーシャルワーカーの活用などによって見つけようとしています。なかなか十分で

ない部分もあります。令和5年度はスクールソーシャルワーカーを、これ市長さんにも背中を押して、いただいて増員倍増しました。

スクールソーシャルワーカーは、非常に大切な役割を持っていて、家庭を学校と繋いで、厳しい家庭を福祉に繋いでいく。関係機関に繋げていく。キッズラップのような民間の団体と繋いでいきながら、子どもたちを、色々なところに繋ぐ役割をスクールソーシャルワーカーが担っています。

こどもえがおサポートチーム

- ◆ 学校と、困難な状況に置かれた児童生徒の支援を協議し、SSWを中心にサポーター（民生委員や児童委員なども含めた地域の支援員）が家庭訪問
- ◆ 保護者の話を傾聴し、不登校を含む家庭教育の悩みや不安の軽減をサポート
- ◆ 各種制度の紹介・関係支援機関につなぐ

支援の中で感じる困難さ

- ◆ 保護者との関係構築や対応の難しさ
- ◆ 多様な関係機関との連携と情報共有

- ◆ サポートする人材の育成・確保
- ◆ 中学校卒業後の継続的な支援

その中で、宇部市がいちばん大切にしている、これをさらに拡充していきたいというのが、「こどもえがおサポーター」です。具体的に言うと、学校と困難な状況に置かれた児童・生徒をつなぎ、いろんな関係を作るソーシャルワークを中心に、支援、サポートしていく。そのサポーターは、民間の方は、福祉の方もおられますけど、地域の方、民生委員、児童委員であり、一番ありがたい存在です。

学校に行かない子がいたとします。教員は、学校がありますので、その家に毎日行くわけにはいきません。地域の方が、スクールソーシャルワーカーやいろんな方と一緒に伺って、そして子どもの様子を見て、うまくいけば学校と一緒に連れてくる。そして、それらを悩んでいる保護者の話をしっかり聞いて、不登校を含む家庭教育の悩みや不安の軽減をサポートします。

今、宇部市の全地域に広げていきたいと思っていますところ。その中で福祉支援が必要な場合は各種制度の紹介や関係支援機関に繋ぐという役割です。

支援のなかで感じる課題は、本当にたくさんあります。

いちばん困難なのは、保護者との関係構築です。保護者には多様な考えがあります。例えば、健康面とか、貧困とか、そういうところがなかなかどうしようもない部分ではあるんですけど、学校が連絡しても学校と信じてもらえないとか、平気で嘘をついたり、平気で居留守を使ったりという家庭もあります。

キッズラップの宅配サービスが来的时候は、保護者が出ますが、教員が行っても絶対出ないという保護者もいます。そのあたりが一番難しいところ。サポートする人材は、地域には、主任児童委員、民生児童委員がおられますが、献身的にやってくれる方が多いです。そういう地域の方は、毎日のように家庭に行ってくださったり、休日に家庭をサポートしてくださったりします。

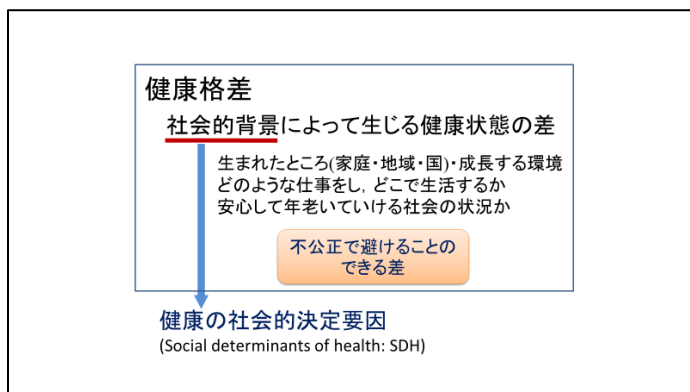
しかし、支援する人材が、まだ、100%とは言えない。

また、多様な関係機関との情報共有が、まだ、100%じゃないなということがあります。キッズラップから連携をいただく場合もありますが、すぐに連携されるので、私もすぐ動けます。その日のうちに解決できるようなこともあります。ところが、連携が取れてないと何が起こったのかわからない。多様な関係機関とどう連携して情報を共有していくか、篠崎市長が説明されたネットワーク作りを、私は非常に期待しています。

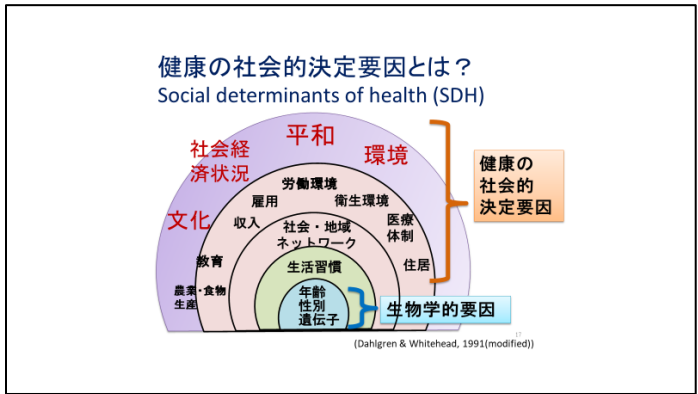
そして、小中学校は、卒業したら残念ですけど我々教育委員会は支援をすることができない。ところが、若者に、貧困層の困難を抱えている子どもが多いというのも事実ですので、卒業後にどう支援していくかも大きな課題の一つです。以上です。

3. キッズラップ金子理事長

私は小児科医です。なお、最初の6枚のスライドは、子どもの貧困に取り組んでいらっしゃる、順天堂大学武田裕子先生のスライドをお借りしました。



先ほど渡辺さんが「教育格差」の話をされましたが、私は「健康格差」の面から、ご説明したいと思います。



子どもたちは、生まれた家庭や、成長する環境によって、健康や、成長・発達が大きく左右されます。その背景にあるのが「健康の社会的決定要因」です。人の健康寿命を決定するのは、個人に資する「生物学的要因」よりも、生活習慣や、社会や地域、そして社会経済状況を含む「健康の社会的決定要因」によることが多いと考えられています。

これを、私達医療者は川の流れに例えることがあります。私達は川の下流で流されてくる人

たちを助ける。それでも次から次へと人は流されてくる。上流で何が起きているのか。橋が壊れているかもしれない、川に柵がないかもしれない。問題を解決するためには、川の上流にアプローチする必要がありますと言われています。

たとえば・・・

喘息の女子高生が外来を受診してきた。
時々しか来院せず、
発作がひどくなってから医療機関にかかるため治療が困難なことが多い。

例えば、私達の現場でよくあります喘息の女子高生が外来受診してきたケースです。時々しか来院しないので発作がひどくなって、医療機関にかかる。

この女子高生に
医師はどのように対応する？

- 喘息発作と診断し、的確な治療薬を渡す
- ひどくなる前に受診しないと、治りにくくなると教育する
- 予約通りに受診しないとだめだと怒る・・・

だから、治療が困難になる。この女子高生に私達はどうやって対応するかというと、適切な診断や診断をして治療薬を渡す、それからひどくなる前に受診しないと治りにくくなるよと教育する。予約通りに来ないと駄目と教える。

話を聞いてみると

生活が苦しくて健康保険料を親が滞納しがちなの

喫煙者の多い喫茶店でアルバイトしてて咳が出て苦しくなる



アルバイトしないと学校の教材費が払えない☆

でも本当にこれで良いのでしょうか。話を聞いてみると、生活が苦しくて健康保険料を親が滞納しがち。喫煙者の多い喫茶店でアルバイトしてて咳が出て苦しくなる。アルバイトしないと学校の教材費が払えない。上流、すなわち、原因にアプローチし、介入しなければなりません。

医師に求められるAdvocacy role

- 診察室での診療のほか、担当患者の健康に必要な**医療以外のニーズ**に対応する
- 診療する地域や、専門領域の患者のニーズに応じて、その方々と共に**制度や仕組みを変える**ために行動する

個々の患者・地域・対象となる患者集団の健康を左右する要因の存在を明らかにする

患者や地域が、健康決定要因をコントロールできるように支援する(診療の中で、医療機関の運営により、また社会活動を通して)

私達医療者に求められる、Advocacy role 代弁者としての役割は、診察室での診療の他に、担当患者の健康に必要な医療以外のニーズに対応すること。そして、その方々とともに制度仕組みを変えるために行動することが求められています。

社会的処方(social prescribing)

既存の医療の枠組みでは解決が難しい問題を解決するための仕組み
(医療機関に持ち込まれる問題の2~3割は社会的な問題)

“薬と同じように社会とのつながりを処方”

社会的困難を抱え孤立した患者に対して健康を維持・改善するために非医療的サービスである第三者機関を紹介

英国保健システム(National Health System: NHS)

社会的手法という言葉がありますが、私ども医療者に求められる、その資質、私どもの外来に持ち込まれる問題の二、三割は社会的な問題であります。

特に社会的な困難があり、孤立した患者さんに対して非医療的サービスである第三者、すなわち、社会との繋がりを処方するという作業これは医療と福祉を繋ぐ仕組みになります。

病児保育「かねこキッズルーム」(2000年~)



かねこキッズまつり(2005年~)



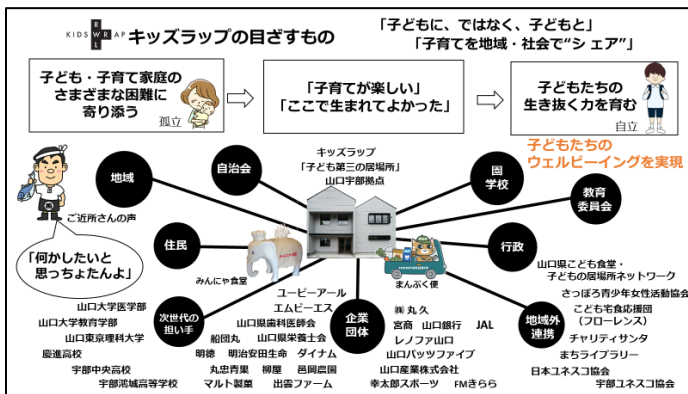
子育て支援拠点(2013年~)



私は診療の傍ら、病児保育室を開設、それから、18年前から地域のお祭り「かねこキッズまつり」を開始。「かねこキッズまつり」は3000人ぐらいの来場者があります。乳幼児とお母さんたちの子育て支援拠点事業をおこなってまいりました。



2017年からは、全て無料で子どもと保護者だけでなく地域の方々も参加できる子ども食堂「みんなや食堂」を運営しております。2019年からは、子どもたちの「食」だけでは駄目だと思い、学習支援を始めました。次は宅食(おうちに食事を届けるサービス)、パントリー事業(無料の食材食料配布)を2020年から開始しました。これは宇部市内の800家庭の子育て家庭が登録しています。2023年から、宇部市から学童保育の運営受託を開始しました。



この中心にあるのが、先ほどから、名前が出ています一般社団法人キッズクラブで、2021年に設立しました。日本財団の子どもの第3の居場所事業を受託しております。私は医師として、子ども、子育て家庭の様々な困難に寄り添うという必要があると思っています。

活動を続けるうちに、「子育てが楽しい」、「ここで生まれてよかった」という。まち作りや地域作り

に関わる必要があるという思いを強くしました。

このキッズクラブという拠点を作ることで、近所の魚屋さんが何かしたいと思っているとか、地域の民生委員さんや児童委員さんが自分たちに、ぜひできることを一緒に考えさせて欲しいって言うようになり、地域の中で、協力して下さる団体さんがたくさん増えてまいりました。

加えて、日本ユネスコ協会連盟のように地域の外の方々からもたくさんお力を借りて、面を広げております。子どもたちに気づく力を育む活動したいと思っています。

自分としての課題は、未来に繋ぐことができるか、そして今、頑張らなければいけないと思っていますところ。以上です。

3. 日本ユネスコ協会連盟小山田理事

1. 日本ユネスコ協会連盟について
(1) 日本ユネスコ協会連盟の組織概要

- ◆ 民間のユネスコ団体 (NGO) として、1948年に創設 (創立75年)
- ◆ ユネスコ憲章の理念に基づき、教育や文化の普及・振興を通じたさまざまな活動を国内外で実施
- ◆ UNESCO (国連機関) や日本ユネスコ国内委員会 (文部科学省内) と連携・協力

昭和二十七年法律第二百七号
 ユネスコ活動に関する法律 (抜粋)
 第四条 国又は地方公共団体は、第一條の目標を達成するため、自らユネスコ活動を行うとともに、必要があると認めるときは、民間のユネスコ活動に対し助言を与え、及びこれに協力するものとする。

本ユネスコ協会連盟の小山田です。日本ユネスコ協会連盟が今進めております U-Smile プログラムの内容と、宇部市との連携協定を踏まえた今後の取り組みを詳しくご紹介したいと思います。

日本ユネスコ協会連盟は 1948 年に創設された NGO です。ユネスコ憲章の理念に基づいて教育、あるいは文化の普及振興を通じた様々な活動を国内外で展開しています。日本ユネスコ協会連盟は連合体組織で、全国に 280 の地域のユネスコ協会・クラブがあります。

1. (2) ユネスコ活動を支えるユネスコ協会・クラブ

- ◆ ユネスコ協会・クラブは、全国に約280
- ◆ ユネスコ協会・クラブ会員に所属する会員は、約14,500人
 - 学生、社会人、リタイアメント世代のほか、教員や教育委員会の教育関係者も多数。学校とも有機的な連携をとって活動
 - 地元の企業も団体会員
- ◆ 多様な担い手が地域のために地域に根差した活動を協力、連携しながら推進

山口県内のユネスコ協会
 宇部ユネスコ協会 下関ユネスコ協会
 徳山ユネスコ協会 長門ユネスコ協会
 萩ユネスコ協会 光ユネスコ協会
 山口ユネスコ協会 岩国ユネスコ協会
 防府ユネスコ協会

山口県内には宇部ユネスコ協会のほか、8つのユネスコ協会があります。会員数は全体で約1万4500人、様々な民間ユネスコ活動を草の根で展開しています。宇部ユネスコ協会は、昭和29年宇部興産の副社長の岡田完二郎氏を初代会長として発足しており、来年2024年には70周年を迎えるという大変歴史のある団体です。

1. (3) 日本ユネスコ協会連盟の教育支援活動の全体像

平時

緊急時

U-Smileプログラム (地域協働型包括教育支援)

世界僧子屋運動 (カンボジア、ミャンマー、アフガニスタン、ネパール)

相対的貧困層

絶対的貧困層

低 貧困度

貧困度 高

点検枠内は、2022年度迄の実績

各種緊急支援(ウクライナ避難民、アフガニスタン、ネパール等) 復興支援(トルコ・シリア大地震等)

日本ユネスコ協会連盟で実施している教育支援活動の全体像です。U-Smile プログラムは相対的貧困層を対象に平時のプログラムとして2023年度より開始いたしました。

2. "U-Smile～みんなであつなぐ子ども応援プログラム"の始動

(1) U-Smileプログラムの理念とアプローチ方法

- ◆ 日本ユネスコ協会連盟は、2022年6月より「地域協働型包括教育支援」(テストラン)を始動
- ◆ 2023年4月より新事業として、「地域協働型包括教育支援事業」を開始
- ◆ 本プログラムの名称は、**U-Smile～みんなであつなぐ子ども応援プログラム～**

困難な状況に置かれた子どもたち

アクション

U-Smile～みんなであつなぐ子ども応援プログラム

ミッション

- 困難な状況に置かれた子どもたちの成長を育む
- 主体的な生活習慣や学習習慣を身につけ、人や社会と関わる力や自立して生き抜く力を養う

ビジョン

- 困難な状況に置かれた子どもたちが夢や希望を待てる社会へ

© 2023 National Federation of UNESCO Associations in JAPAN (NFUJA)
 〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1 日本ユネスコ協会連盟

事業は、「地域協働型包括教育支援」で、プログラムの名称は、**U-Smile～みんなであつなぐ子ども応援プログラム**と言います。

2. (2) 地域協働型包括教育支援の概要とめざすもの

包括教育支援	地域協働支援								
	日本ユネスコ協会連盟	地域のユネスコ協会・クラブ	自治体	教育委員会	活動団体	社会福祉協議会	経済団体	地元企業・団体	地域住民・学生
1. 全体企画・ネットワーク作り・コーディネート									
2. ネットワーク・子活動(対象者の発見・利用促進)など、アクション計画(専門知識・知見・連携)									
3. 居場所支援(生活習慣形成支援等)									
居場所支援機会の設置・運営									
子どもの選別									
子ども遊び、相談、指導、見守り活動									
4. 学習支援(習字学習習慣形成支援)									
学習支援機会の設置・運営									
子どもの学習指導(個別・少人数)									
5. 体験支援(子どもの成長を促す各種イベント)									
スポーツイベント/キャンプ									
自然体験/社会見学/郷土学習/地域行事等									
6. 保護者支援									
7. 資金援助(カンパ/レシding)									
8. 広報活動									
9. 事業の効果検証									
10. 事業の形態別への展開									

◎ 取り組み主体
 ○ 取り組みサポート・協働・ボランティア
 △ 関係先・情報共有先
 各担い手の役割を調整し推進していく

一つ一つの取り組みが縦糸、横糸となって織り込まれ、誰一人取り残さない、大きく、きめ細かな布(セーフティネット)として地域の子どもたちを包み込み、そのような協働のつながりを見える化し、促進する。

© 2023 National Federation of UNESCO Associations in JAPAN (NFUJA)
 〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1 日本ユネスコ協会連盟

この図は、地域協働型包括教育支援、子どもがU-Smileプログラムとして進めている事業のコンセプトを示したものです。

縦軸が包括教育支援事業です。横軸が地域協働支援の軸です。まず縦軸の意味するところは、支援を必要としている子どもたちを支援の場にどう自然な形で連れてくるか、あるいは、規則正しい生活習慣とか学習習慣、あるいは向学心、向上心、自己肯定感をどう増やしていくのか、そのためには心にスイッチが入るような感動

体験の機会をどう増やしていくのかと、様々な角度から保護者さん、親御さんも含めて全人格的な触れ合い、長い見守りが必要になってくると思います。

これを一つのNPOとか、福祉団体などだけでやりきることは、なかなか難しいと思います。

先ほど野口教育長から学校の現場のお話もいただきましたが、学校だけで自己完結的ということも大変難しいというふうに思います。ここでやはり横軸にあるような地域の様々な機関が、密接に連携協働して役割分担しながら、地域全体で困難な状況にある子どもたちを育てていくアプローチが必要だと思います。

2. (3) 地域協働型包括教育支援の3つのねらい

- ① 各地域における個々の取り組みをより組織的、有機的につなげ、連携や協働を促進することで、困難な子どもたちに対する支援の網羅性、実効性を高める(セーフティネットとしての地域支援力の強化)
- ② 個々の取り組みに対し、資金面、人材面、情報面等から支援する
- ③ 各地域における成功事例等を地域を越えて横展開して、全体の底上げを図る

➡

© 2023 National Federation of UNESCO Associations in JAPAN (NFUJA)
 〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1 日本ユネスコ協会連盟

U-Smileプログラムで実施したいことが三つあります。第1は、地域における個々の取り組みを組織的につないで支援の網羅性、実行性を高めていくことです。第2は、地域の個々の取り組みに対して日本ユネスコ協会連盟として必要とされる資金とか人材情報など、様々な面から支援を行いたいと思っています。第3は、各地域における成功事例を、地域を越えて横展開して日本全体の底上げをしていきたいということです。宇部の取り組みが、最初の取り組みになりますので、この取り組みを「宇部モデル」としてぜひ全国に広げていきたいという思いを持って進めているところです。

3. (1) 山口県宇部市における活動実績

取り組み

- おかねを学ぶ教室 (2022年12月開催)**
 - 宇部ユネスコ協会の団体会員である山口銀行宇部支店が、金銭管理教育を、地元団体の子ども居場所にて実施。
 - 宇部市長、市役所、教育委員会、金融庁包摂ラボが視察。
- 子ども支援の意見交換会 (2022年12月開催)**
 - 地元関係者にて子ども支援に係る意見交換会を開催。
- 沖縄体験旅行 (2023年3月実施)**
 - 地元団体が子どもたちの体験格差を埋める「沖縄体験旅行」を実施。
 - 宇部ユネスコ協会と沖縄県ユネスコ協会が連携のうえ、U-Smileプログラム助成金を利用し支援。

→ **日本ユネスコ協会連盟と宇部市の連携協定締結へ**

連携協定締結 2023年9月28日



徳崎宇部市長 鈴木理事長



9月28日(木) 第一回ワーキングチーム例会

おかねを学ぶ教室 意見交換会 沖縄体験旅行

© 2023 National Federation of UNESCO Associations in Japan (NFUA)
〒752-8584 山口県宇部市 徳崎 4-1-1 3F

宇部市における活動については冒頭の挨拶の際、説明させていただいた通りです。

3. (2) 山口県宇部市における活動実績

① おかねを学ぶ教室 (2022年12月17日(土)開催)

② 意見交換会 (2022年12月17日(土)開催)

③ 沖縄体験旅行 (2023年3月27日(月)~29日(水))



① おかねを学ぶ教室 (2022年12月17日(土)開催)
【主催】 山口銀行宇部支店
【協賛】 徳崎市教育委員会
【参加】 宇部ユネスコ協会
【協力】 宇部市長 市役所 教育委員会 金融庁包摂ラボ

② 意見交換会 (2022年12月17日(土)開催)
【主催】 日本ユネスコ協会連盟
【協賛】 山口県ユネスコ協会
【参加】 宇部市長 市役所 教育委員会 金融庁包摂ラボ
【協力】 宇部ユネスコ協会

③ 沖縄体験旅行 (2023年3月27日(月)~29日(水))
【主催】 キッズラップ
【協賛】 日本ユネスコ協会連盟
【参加】 宇部市長 市役所 教育委員会 金融庁包摂ラボ
【協力】 宇部ユネスコ協会

© 2023 National Federation of UNESCO Associations in Japan (NFUA)
〒752-8584 山口県宇部市 徳崎 4-1-1 3F

「お金を学ぶ教室」、「意見交換会」にはたくさんの皆さんにご参加をいただきました。篠崎市長にも来ていただいて名刺交換を行っていただきました。沖縄体験では、沖縄県ユネスコ協会にも協力いただきました。体験旅行の振り返りで、キッズラップの金子代表理事は、キッズラップを始めて1年半だが、その間の成長と比べても、3日間の沖縄体験旅行はより大きな成果に繋がったということをお話されたことを印象深く覚えています。体験の重要性、これを改めて認識しました。

3. (3) 宇部市における支援フォーメーション

宇部日報社、ファーストリテイリング、日本航空、山口銀行、UBE

	地域協働支援	民間団体	市民活動	学童団体	企業	学校	地域福祉・学生
1. プログラムの全体企画ネットワーク作り	山口県宇部市	日本ユネスコ協会	宇部市市民活動センター	宇部市教育委員会	宇部市社会福祉協議会	宇部市立小学校	宇部大学
2. スコアワーカー活動 (宇部市社会福祉協議会)	山口県宇部市	日本ユネスコ協会	宇部市市民活動センター	宇部市教育委員会	宇部市社会福祉協議会	宇部市立小学校	宇部大学
3. 居場所支援 (宇部市社会福祉協議会)	山口県宇部市	日本ユネスコ協会	宇部市市民活動センター	宇部市教育委員会	宇部市社会福祉協議会	宇部市立小学校	宇部大学
4. 学習支援 (宇部市社会福祉協議会)	山口県宇部市	日本ユネスコ協会	宇部市市民活動センター	宇部市教育委員会	宇部市社会福祉協議会	宇部市立小学校	宇部大学
5. 体験支援 (宇部市社会福祉協議会)	山口県宇部市	日本ユネスコ協会	宇部市市民活動センター	宇部市教育委員会	宇部市社会福祉協議会	宇部市立小学校	宇部大学
6. 保護者支援 (宇部市社会福祉協議会)	山口県宇部市	日本ユネスコ協会	宇部市市民活動センター	宇部市教育委員会	宇部市社会福祉協議会	宇部市立小学校	宇部大学
7. 資金集め (2PMプロジェクト)	山口県宇部市	日本ユネスコ協会	宇部市市民活動センター	宇部市教育委員会	宇部市社会福祉協議会	宇部市立小学校	宇部大学
8. 広報活動	山口県宇部市	日本ユネスコ協会	宇部市市民活動センター	宇部市教育委員会	宇部市社会福祉協議会	宇部市立小学校	宇部大学
9. 事業の持続性確保	山口県宇部市	日本ユネスコ協会	宇部市市民活動センター	宇部市教育委員会	宇部市社会福祉協議会	宇部市立小学校	宇部大学
10. 事業の地域への展開	山口県宇部市	日本ユネスコ協会	宇部市市民活動センター	宇部市教育委員会	宇部市社会福祉協議会	宇部市立小学校	宇部大学

担当事体 担当事体 担当事体 担当事体 担当事体 担当事体 担当事体

© 2023 National Federation of UNESCO Associations in Japan (NFUA)
〒752-8584 山口県宇部市 徳崎 4-1-1 3F

宇部市と連携協定を結び、地域を代表する各団体、企業とワーキングチームを組成しております。宇部市子ども未来部、教育委員会、キッズラップ、市民活動センター青空、宇部市社会福祉協議会、宇部市商工会議所、企業では、宇部日報社、山口銀行宇部支店、ファーストリテイリング、日本航空山口支店、UBE、大学では、山口大学、学生団体ウベカレと非常に強力なチームが出来上がったと思います。このチームで、地域協働の実を上げていきたいなと思います。

まずは、体験支援をしっかりとやっていきたいと思っています。子どもたちの心にスイッチが入るような体験機会を提供することで、何かそこできっかけに子どもたちが大きく変わっていけばいいなと思っています。今、考えているのは、年間を通じて、いろんな体験のメニューを揃えて、それを必要とされるお子さんたちに、体験の機会を提供していきたいと思っています。体験支援から始めて、次は、居場所支援、学習支援、保護者支援にも繋げていきたいと思っています。

4. まとめ “U-Smile～みんなであつなく子ども応援プログラム～”

- ◆ 地域での「つながり」(連携や協働)がより大きな成果を生み出す
- ◆ 子どもたちが自信とやる気を取り戻し、自立できる包括教育支援を推進する
- ◆ ユネスコの経験と強みを最大限に生かし、本プログラムを効果的に展開する
- ◆ こども支援は、宇部市の他事業、まちづくり施策とも、密接に関係。連携し推進する



皆さんが、おっしゃっていることですが、地域での繋がり、連携協働が網の目のように広がって、そしてそれが強くなればなるほど、地域の子どもたちを育む力より大きくなると思います。子どもたちの未来に繋がる道をより確固たるものになると思います。そういったことを信じて、この取り組みを全力でやっていきたいと思えます。網の目のように広がっていくことがポイントになります。ぜひここにおられます皆さんにおかれ、何らかの形で何か機会がありましたら、この

の支援チームに加わっていただけると本当にありがたいと思えます。地域はワンチームだと思います。

地域で支えていく、私は民間の役割も大きいと思えます。企業は、地元と運命共同体であり、シニアの方々はいろんな経験とか、それから専門性スキルを持っています。これは社会資産だと思えます。学生の役割も大きいと思えます。お子さんが嬉しいのは若いお兄さんお姉さんと一緒に何か遊んだり、勉強したりすることなので、学生の方々にもどんどん来ていただきたいと思えます。

地域の皆さんが入ることによってチームは強くなるので、ぜひよろしくお願ひします。以上です。